

夢サラダ Vol.65

2021.7.1 発行

市民活動の拠点を目指しています。

「今治市民活動センター」

指定管理者：(特非) 今治NPO サポートセンター

【お問合せ】TEL/FAX 0898-25-8234

E-mail imanpo@nifty.com

2021 年度

市民が共におこすまちづくり事業
補助団体決定！

2000年に創設され、長年に渡り、市民活動の推進を支援してきた「市民が共におこすまちづくり事業」。毎年、多様な活動が市内で開催されてきました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、活動が制限される中、2021年度は3団体への補助が決まりました。困窮者の増加、対人関係の分断等の懸念へ向き合い、工夫をしながらの活動がスタートしています。

地域協働 のまちづくり

新型コロナウイルス感染防止のための自粛要請に伴い、市民活動の事業継続にも影響が出ています。

多様な分野の長年の活動が後退、中断している現状がとて心配です。今、改めて、多様な主体が手を取り合って、苦境を乗り越えることが求められています。

知っていますか？

協働ネットワーク構築支援事業

中間支援組織を核として、多様な主体が連携して、平時から顔の見える関係(ネットワーク)をつくり、地域で抱える様々な課題に効果的に対応できる仕組みづくりに向けて取り組んでいます。今治市民活動センターは、愛媛県東予圏域の中間支援組織として、この事業に参画しています。

プロファイリングフォローアップ調査

昨年度、コロナ禍における市民活動の状況を把握する調査が行われました。想定を超える困難ごとに向き合う活動が報告されました。

課題・ニーズ

- ・移動、外出の自粛⇒メンタル不調の声
高齢者を中心に体力低下の声
- ・イベント、集会の中止⇒情報収集の場の激減
障がいを持つ方からは切実な声
- ・仕事、住まいを失う等の生活困窮者の増加

市民活動推進事業

継続性のある事業を支援。補助金交付は2回までOK！但し、前回の事業からの発展的要素が必要。

今治市吉海町里山復活事業

吉海町正味自治会

吉海町として耕作放棄地を開墾し、瀬戸内の風土にあったオリーブ苗の植樹を継続してきた。320本からスタートし、現在約1200本に増えている。本事業では①80本の追加植樹、②耕作放棄地の新たな開墾を進める。オリーブ油の搾油に向けた準備を進める。
 <成果目標> 来島海峡を臨む立地で移住者が増える地区である。オリーブ油の搾油等の新産業を見据え、農業による地区住民の結束強化等を目指したい。

僕たち私たちの考えること「小さな声を聴いてみよう」

NPO法人すくらむハート

知的・身体・精神等に障がいがある人達の社会参加を支援する中、コロナ禍において人と人との分断を懸念。本事業では①当会の利用者と市内の子ども達が一緒に絵を描く交流(画家マヤマックスさん招聘)を実施。②参加者の感想をまとめた報告書を作成する。
 <成果目標> 交流を通して、参加者が他者への思いやりの心の大切さを再確認すること。子ども達の心の変化を可視化し、就労や社会進出の機会へつなごう。

テーマ型協働推進事業

市が提示したテーマに、市民活動団体が事業を提案。学校、自治会、企業等、多様な主体との協働事業を提案。

第二回ワーママ夢サミット

バリママ倶楽部

母親等を対象にした学びや交流のイベント等を通して女性の社会進出を応援する2年目の事業。生活の質を高める新しい働き方を始める①セミナーの開催や②サポート、③受講生や講師のコミュニティの構築を支援する。
 <成果目標> 起業や在宅ワーク等、母親等の新しい働き方によるライフスタイル構築を支援。収入面を含むあらゆる面でのジェンダーギャップ解消、子どもとの時間の創出を目指したい。

<活動の実績>

- ・相談、カウンセリング
- ・ストレス解消支援
- ・孤立や差別解消支援
- ・子どもや高齢者等の居場所提供
- ・支援物資の提供 など

【回答率】 NPO法人 98/487 20.1%
多様な主体 253/1226 20.6%

コロナ禍 のまちづくり



分断・自己責任…、そして孤立。困難な事象が当面続くことが予想されます。そんな中“好きなことに関わる”“気軽に参加できる”プラットフォームが多様に生まれています。社会貢献の場と時間を生むしくみ・システムの創出は共生・共助のまちづくりへのヒントです。



自粛、我慢が続く日常。オンラインでの「会議」「広報活動」はもちろん、「観光や帰省」「イベント」の展開が各町で工夫されました。FB・チャット・ライン等の機能の活用、動画配信により実現しているのは“双方向性”。リアルにつながる工夫を参考にしたいですね。

事例③オンラインで市民をつなぐ



* 感染拡大に伴い延期

オンラインでも“双方向”。改めてつながりづくりへの思いを感じます。「**ただいま**」「**おかえり**」と言いあえるまちにするシトラスリボンプロジェクトの精神です。

生活を一変させた新型コロナウイルス。NPOの活動にも大きく影響しました。対面活動、イベント自粛を余儀なくされながらも、目の前の課題はより深刻になるという危機的な状況も…。状況を捉え、活動にいかすため、この程、事例共有の講座を開催しました。それぞれの事例は困りごとに寄り添い、その解消への大きな助けを見せていました。そこには市民の善意をまちのチカラに返る「つなぎ手」の存在が…。編み出した工夫・アイデアを共有しましょう。



◀愛媛大学社会連携推進機構地域連携コーディネーター・SDGs推進室副室長の前田眞さんにオンラインで事例提供をいただきました。Zoomを使った学びの場を提供できることは、コロナ禍で得たスキルの一つ。

事例①コミュニティフリッジ(岡山市)

「コミュニティフリッジ」とはコミュニティ全体で使える冷蔵庫のこと。2012年にドイツ・ベルリンで食品廃棄削減による環境保護活動の「フードシェアリング」から派生。コロナ禍で困難を抱える親子・学生への支援につながっています。



事例②テイクアウト部(松山市・今治市)

テイクアウト利用店舗情報を共有し、困窮する飲食店を支援するしくみが機能。ポイントは「理念への共感者が自らの強みをいかし、役割を能動的に果たす自立的な運営です。誰でも自由に発言できるプロジェクトスタイルは、これまで社会貢献に関心がなかった層の社会参画を促しました。今治市では、個人参加と多様な主体の協働体制が整い、「いまばりエールプロジェクト」として制度化されました。



《参加者の声》

- ・知らない事例ばかり。勉強になった。
- ・シトラスリボンの活動が愛媛で誕生したことを初めて知った。
- ・オンライン講義なので、もっとたくさん(市外の人)にも聴講してほしいと思った。
- ・Zoomを初めて利用した。



Citrus Ribbon PROJECT

「誹謗・中傷、差別をしない」その思いを見える化したリボン。愛媛の有志6名がつけました。3つの輪は、地域と家庭と学校や職場。プロジェクトは全国へ波及しています。

知っていますか？

シトラスリボンプロジェクト！

多くの共感を得て、社会から信頼される活動を育んでいくために、情報発信は活動の肝！コロナ禍で SNS 等でのつながりづくりは加速度的に普及しました。不得手な世代が多い現場は、逆手にとって若者をサポーターにしたいところです。各町での好事例を循環させ、「誰一人取り残さない」持続可能なふるさと・今治のまちの実践にいかしたいものです。



2020 年度 市民が共におこすまちづくり事業 報告会

先般、2020年度補助事業の報告会がありました。新型コロナウイルス感染症の影響で、事業設計に苦慮しながらも、感染防止対策を徹底してのイベント、オンライン講座等、新たな運営スキルを獲得した様子に脱帽です。子ども達への学びの場の提供、女性の社会進出のサポート等、コロナ禍でより深刻になったと推測されるニーズに向き合うもので、地域社会へ与えるインパクトが大きい事業でした。潜在的な問題が炙り出され、地域社会に課題を明確に伝える報告会になったと感じています。今後、多様な主体が連携し、暮らしやすいまちづくりを進めたいとの思いを強くしました。



◀ 審査員の様子

報告内容に耳を傾ける審査員。補助事業として質・量共に適切か、事業の発展性に向けた工夫はあるか、等の観点から質問がありました。事業継続を前提に具体的な助言もありました。



① ばーりーすクール

身近なまちから世界とのつながりまで、分野多彩な大人が先生となって、主体的に学び合う活動を展開。知らない世界へ見聞を拓げ、参加者同士が気づきを深め、自らが社会の一員として何ができるかを考えるきっかけづくりを行った。SDGs17の目標の、どの目標達成につながる活動が意識し、持続可能な社会へ向けた取り組みを進めた。



「SDGsの普及推進に向け、SDGsマスターの資格を取得する等の研鑽に励んだ。次年度へいかしたい。」

多様な担い手と連携し、子ども達に学びの場、考える場を提供。社会や地域に貢献する意欲を持ち、夢を持って生き生きと活躍できる社会の実現に寄与することを目的に活動中。

ばーりーすクール運営委員会
代表 近藤久仁子さん

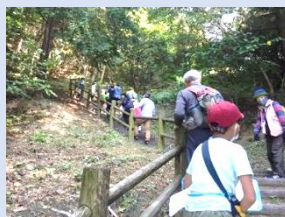


▲海事都市・今治の産業を題材にした「世界の海で船を動かす仕事」には延べ13名の子ども達が参加。そこに携わる人(仕事)は未知の領域があった様子。未来の自分の職業観につながった。

「今治のハーブ博士に学ぼう」ではコロナ禍の中、野外で草木の観察とハーブソーセージ作り。のびのび過ごす自由時間の意義深さを実感。



▲オンラインでつながった「ネパールにこんにちは」。ネパールの子どもの達11名の学びへの意欲に刺激を受ける機会に。



「親子味噌づくり教室」では菌の役割と可能性を学習。味噌を仕込み、育てる体験から人と菌の共存を見つめてほしい。



審査委員 SDGs の先駆的な取り組みとして、大いに期待している。次年度以降の継続的に学びの場をいかに構築するかに注視したい。団体が専門性を高めていること(資格取得等)、地元企業等の業務のプログラム化による連携というビジョンへエールを送りたい。

② 女性の働き方サポート事業

子育て中の女性が働きやすい環境が整っているとは言えない現状に向き合い、雇用の枠組みに捉われず、自ら起業する技術・知識、ネットワークを獲得する連続講座を開催。22名がオンラインで学んだ。個別サポートでの補習、SNSを活用した受講者ネットワークの構築等、きめ細かい支援体制を構築した。



「本事業の講師陣は、私の起業を後押ししてくれた方々。同じ立場の子育てママに、経験を伝えたい」

若年女性の転出率が多いことから「消滅可能都市」といわれるまち。子育て世代が働き続ける環境整備に向け、当事者の声に寄り添う活動を展開中。

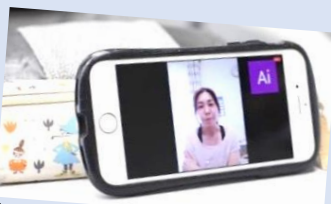
バリママ倶楽部
代表 竹中由梨さん



▲子ども連れで参加できる学びの場。働く場の光景と重ねながら受講だ。



▲チラシで参加呼びかけ。10回全てオンライン受講(初回・最終回は参集あり)・事後の動画配信サービスと工夫した講座を行った。オンライン受講対象者は幅広い。より多くの受講者を募ることが次年度の課題。手応えはある。今治市民にしっかり情報が届くようにもしたい。



審査委員 女性の社会参加を当事者目線で支援する精神的なサポート事業を評価したい。「女性×起業」といったセミナーは乱立するが、その中でも充実したプログラムだ。受講料を抑えられたのは補助事業ならではの恩恵を受ける対象者を拓き、かつ、実際に起業する実践者の誕生に期待したい。

基礎から学ぶ

NPOのための会計講座



積極的な情報公開！ボランティア、資金提供者等、たくさんの善意に支えられているNPOにとって、重要なことです。中でも「会計報告」は組織の経営状態を数字で示すことができる大切な書類。支援者等の説明責任資料であることはもちろん、対外的に公開することで、新たな支持・共感を広げていく材料にもなります。この程開催した講座から、「業務、管理のポイント」のレポートです。

会計の4つのステップ

① 帳簿を付け、勘定があう！

*現金管理業務

日々の現金の出入金を記録。

*証憑類の管理業務

領収書等を時系列&月単位で管理。

*帳簿の記帳業務

勘定科目ごとに記録する総勘定元帳を作成。

② 正しい報告ができる！

策定 10 年目！NPO 法人会計基準

* 分かりやすい&正確な会計報告 *
統一したルール→NPO 法人の信頼性向上へ
《必要な書類》

* 活動計算書：1 年間の正味財産の増減

* 貸借対照表：単年ごとの資産と負債

* 財務諸表の注記：より詳しい情報の開示

2010 年 7 月 20 日策定

2011 年 11 月・2017 年 12 月に一部改正

* NPO 法人会計基準を使うことは義務ではありません。

③ 活動分析ができる！

会計データは活動の振り返りの材料

④ 計画に従って必要なお金を集める！

必要な活動を見極め、予算化へ

会計情報を整備する段階

活用する段階

会計ソフトを使った「NPO 法人の会計報告」

初期設定

帳簿入力

決算処理

・決算仕訳

《決算資料》

① 活動計算書

② 貸借対照表

③ 財務諸表の注記

④ 財産目録

次年度更新

会場参加者には「越智税理士事務所」より、個別相談会を行いました。勘定科目の設定や資産の計上と減価償却等、具体的な質問がありました。はじめて決算期を迎える団体には、愛媛県や今治市が行う NPO 法人への支援内容等の紹介を行いました。

(参加者の感想)

- 団体を立ち上げたばかり。とても勉強になった。
- 決算期を前に、わからないことがあったが、少し整理できた。
- 今日聞いた内容を、組織で共有したい。



NPOにとって会計とは

会計＝資金・資材の出入りを管理すること

情報開示の材料をつくること

「会計って苦手で…」 「目の前の活動が忙しくて…」
そんな声を聞きます。まずは「会計」の役割について、果たすべき説明責任の観点から共有しました。

★ 「誰のため」＝支援者を含め、一般市民へ

★ 「何のため」＝活動を伝え、支援者を増やすため

継続的な活動が前提！活動に必要な経営資源が決して多くはない NPO にとって、活動を数値化し、正しい経営状態を把握することはとても大切です。

市民にとってわかりやすいもの

会員や理事、ボランティア・寄付者等、多彩な支援者の信頼の上に成り立つ NPO。その信頼に応え、さらに多くの共感を得る材料にしたいですね。

信頼獲得の正確な会計報告

共通したルールに従って作成し、さらには活動を分析するデータにも。そこには、新たな社会的ニーズ、事業の種が内在しています。

「会計ソフト」

会計情報の整備から活用まで！

NPO 専用の会計ソフト「会計王 NPO 法人スタイル」。提供しているソリマチ株式会社は民間主導の「NPO 法人会計基準づくり」にも参加した会社です。講座ではこの会社の北野雅之さんから、実際に「会計王」画面を見ながら、会計の手続きを学びました。簡便で多彩な機能の一つ一つ紹介しながら「上手に使う、会計業務の省力化にも」との助言がありました。



◆ 経理方法は複式簿記が前提。複式簿記に知識がない方にお勧めの入力方法もあるのが心強い。

便利な部門設定・
エクセル出力等
NPO の実態にあった
使い方にメモをとる
参加者。

